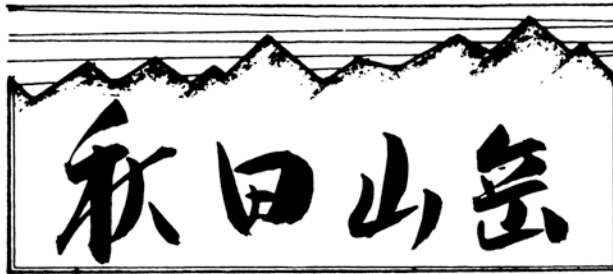


2020



令和2年11月 発行

No. 117

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市泉菅野  
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX018(823)2708

発行 秋田支部  
編集 鈴木裕子

## 山の環境整備県民協働事業

今年度の県自然保護課主催「山の環境整備県民協働事業」は、太平山奥岳山頂トイレの防錆剤塗装作業であった。

九月十九日(土)、前日の雨で、どうなることかと心配されていたが、早朝から晴れあがり、予定通り実行された。今年度はコロナ禍のため、学生・生徒の参加者はなく、社会人山岳会の参加者のみであった。

中央地区山岳協議会会員等の参加で駐車場は混雑すると思いき、早めに旭又登山口に向かったが、既に鈴木支部長は到着していた。

旭又駐車場には、橋の架け替え工事のための作業用プレハブ等があった。

参加者二十五名が揃ったところで県自然保護課の澤田智志課長からの挨拶と、担当の池端東記主任から、本日の行程と諸注意の後、作業用のカッパやゴーグル、手袋などが参加者に配られた。また、ペンキ四リットル入りの缶数個、ローラーを取付ける竿数本等を、皆で手分けして運ぶ。

七時四十五分出発。旭又駐車場から旭川に新しく架け替えられた橋を渡り初めする。ここ数年、橋が洪水で流されて、馬場目岳登山コース経由で迂回しなくてはならなかったため、大変助かった。

昨日の雨で歩道はまだ濡れていて、滑らないように、背の荷物の重さを肩で感じながら、ゆっくりと登った。

### 山の環境整備県民協働事業に参加

鎌田倫夫



十一時、山頂小屋トイレの防錆剤塗装作業が始まった。昨年の馬場目岳避難小屋と違うのは、窓のガラスに防錆剤が付かないように、塗装前にナイロンとテープで窓を保護する作業があった。

交替で作業し、予定時間内で作業は終了した。

また、参加者の内、数名は、分岐から旭岳への歩道の刈り払いをした草木の撤去作業に当たった。

作業終了後の休憩は、三吉神社で、この日のために参籠所を開放してくれたのだが、山頂の風が心地よく、殆どの参加者は屋外で昼食を済ませていた。

午後一時三十分下山開始。

御滝神社に着いた頃に、突然、雨が降ってきた。雨具を着たが、旭又に到着する頃には雨は止んだ。作業中に降らなかったのが良かった。

三時三十分頃、駐車場に着いたが、空模様が怪しいので解散式は特に行わず、それぞれ挨拶を交わして帰路についた。

余談ではあるが、御手洗のベンチに、熊が付けたと思われる新しい傷があったことと、下山してから気がついたが、藤田さんの右手首に、山ビルがついていた。

#### 参加団体

河辺山歩会 上小阿仁山岳会  
日本山岳会秋田支部 秋田山岳会  
秋田遊歩山岳会

#### 秋田支部参加者

今野昌雄 鈴木裕子 鎌田倫夫  
藤田正義 歩仁内昌樹 三浦昭男

# 追悼 大山孝一氏を偲ぶ

支部顧問 佐々木 民 秀

## 大山 孝一 氏

昭和八年一月二日生

昭和三十八年九月 日本山岳会入会

会員No.五六三二

紹介者 荒巻廣政 柴田均二

昭和四十四年度〜四十六年

秋田支部監事

平成二十五年十二月 永年会員

平成三十一年四月二十九日逝去

享年八十六歳

秋田支部古参の大山孝一さんのご逝去を、会報「山」の物故者欄で知った。

大山さんは、昭和三十五年に「横手岳篤会(横手高校山岳OB会)」を結成されて活動。その三年後の昭和三十八年に入会され、同四十四年から四十六年の三年間、当支部の監事を務められた。

その当時、小生は委員を務めており、支部総会時でお会いしたり、昭和四十四年には初代荒巻支部長の送別会が仁別国民の森に於いて開催され、それに同席した時程度で、山行を共にする機会はなかった。

県庁勤務の大山さんとは、同じ建築

確認業務を市役所で担当していた小生にとつては、頼りがいのある先輩で、色々と建築行政のノウハウを教えて頂いた事等は、懐かしい思い出として残っている。



平成二十五年度の年次晩餐会で永年会員に推挙され、そのお祝いに、翌二十六年二月に横手市のご自宅へ、今野副支部長、鈴木裕事務局長、佐藤(博)委員と共に伺ったのが最後となりました。心から感謝申し上げます。(合掌)冥福をお祈りいたします。



永年会員章

## 支部合同会議

支部長 鈴木 裕 子

九月二十六日(土)、東京四ツ谷主婦会館プラザエフで午後一時開催。

この度の支部合同会議は、コロナウイルス感染阻止を考慮し、例年は、支部長、事務局長が出席し、二日間行われていたものであるが、この度は、各支部一名の出席で、半日に縮小され、交流会も行われぬ。

会議への申し込み時は、秋田県の首都圏への往来自粛要請の方針に従い、秋田支部は欠席とした。

会議は、オンラインでの参加も可能であったが、努力はしたものの、ズームが作動せず、こちらも不参加。会議の状況がリアルタイムでユーチューブ公開されたので閲覧した。

司会は永田常務理事。各支部から十五名出席。ズーム参加者は三十五名。古野会長の挨拶の中で、このコロナの経験を活かしての運営に生かしたい。来年の夏ごろにはコロナが明けて、希望一杯の山々が待っているが、期待したい。また、私の考えであるが、ヨーロッパのピオレドール賞(金のピッケル)のような生涯功労賞、例えば、地域に根差した登山・山岳文化、自然保護等に貢献した人の、支部からの推薦等を考えている。

また、百二十周年記念事業の山岳古道調査は、学術調査ではない、山岳文化を楽しむこと、自慢の山々に足を運んでもらえるようなところを検討して頂きたい。との事であった。

会務報告は、支部事業委員会の支部別補助金や指導者養成講習会の報告。

全国支部懇談会は、一九八二年より開催されてきた。今年度は宮崎支部であったが中止となった。次年度は東海支部設立六十周年記念事業に合わせて行う予定。全国支部懇談会の運営については、三十三支部での持ち回りは、開催サイクルが長く、近年はイベント的な要素が多くなり、会員数の少ない支部では開催負担が重い。参加者を百名未満とし、春・秋に開催地を変えて行う、支部の周年記念事業等と合わせてはどうか。アフターコロナを考慮し、安全な人的交流を模索する必要があること等が、今後の検討課題である。

財務会計の注意点については、今年度はコロナ禍により事業を行えないこともあり、支部事業補助金の剰余金は次年度への繰越が可となること、決算報告書への記載の仕方等。

続いて、百二十周年記念事業委員会の報告等。年次晩餐会は残念ながら中止。同日行われていた「支部連絡会議」はオンラインで行う。山の日事業委員会の報告、会員名簿の作成、新入会届については、「山九月号に掲載」。

休憩の後、「山岳古道調査について」近藤理事の説明。まず、調査する山岳古道を各支部から、令和三年三月末までに推薦してもらい、リストアップする。調査する古道を令和三年四月から行うことも可。ホームページの作成も行う。書籍の作成は令和六年から、完成は令和七年十二月の予定。

近藤理事のお話の中に、諸般の事情でパワーの無い支部は、近隣の支部や

# 追悼 小野信也氏を偲ぶ

支部顧問 今野昌雄

## 小野信也氏

昭和二十一年十月五日生

平成十四年七月 日本山岳会入会

会員No.一三六八九

紹介者 今野昌雄 佐々木民秀

令和元年十月八日逝去 享年七十三才

小野さんの小又峡での水難事故から一年、いまだに信じがたく、近くからにっこり声をあげて現れる気がします。昨年十月八日、九日は、秋田市で、高校退職教員東北・北海道集会に参加していました。小野さんが行方不明の事を鈴木裕子支部長からの電話で知り、急ぎ新聞を見て、すぐ太平湖に向かいました。

この日は手掛かりがなく、十日は、朝七時に太平湖に行き、警察、消防、南八幡平山岳会、東北ガイド協会等の方々と捜索、残念ながら手掛かりなしでした。支部会員の田口善信(南八幡平山岳会会長)、佐藤和志(支部長、藤原健前会長)、長男の十護さんも一緒にしました。

十一日、水量もほぼ平常に戻り、澄んできた小又峡の自分のすぐ近くの罫穴で、ダイバーが小野さんを見つけ、

引き上げてくれたのが九時五十分、四日間も水中で、どんなに冷たかっただろうと、手を合わせるのがやつとでし

た。それにしても、あれほど日頃安全を心掛けていたのに、増水してきていたとはいえ、歩道上で小野さんの手をつ



かんで歩いていた女性がバランスを崩して転倒、はずみで小野さんも転び、深い方に流されたと聞き、あり得ないことだと、ただただ残念で言葉もない状態でした。

小野さんは、会社経営の他に、南八幡平山岳会、県山岳連盟、東北ガイド協会等の重責を担って活躍してきました。

平成八年は、長男が大曲高校登山部でCLだったこともあり、合宿や北岳インターハイの偵察山行等で指導から

部員の輸送まで、大変お世話になり、おかげで優勝することが出来ました。この優勝がきっかけで、その後、平成十四年までの間に、女子三回優勝はじめ、男子準優勝二回、女子三位二回、男子一回の好成績を残しました。

登山部の各種大会は安全登山を目指し、登山の基礎を身につける事であり、大会は登山活動の一部ではない。山が四季折々見える美しさ、登山する者のみに山が与えてくれる山の魅力とその厳しさに触れ、部員同士の交流にこそ意義があります。平成七年の三月春合宿(仙岩トンネル、貝吹岳、モッコ岳、和賀岳・薬師岳)は小野さんに同行してもらい、実施できました。その後、大曲高校登山部の春山合宿は、平成十四年春まで続き、北奥羽脊梁縦走合宿(八幡平から焼石岳南、大森山トンネルまで)を実施しました。

小野さんの海外登山は、ヨーロッパアルプス遠征、キリマンジャロ、キナバル、韓国、台湾等あり、平成十二年には、秋田県体育協会の優秀指導者賞を受賞しています。奥様のお店(ビール)が混んでいる時は、進んで皿洗いをしていられることもありました。明瞭な言葉と、優しく億劫がらず率先して行動するので、多くの人に慕われていました。秋田駒ヶ岳、乳頭山のトレッキング番組で素晴らしいガイドをした小野さんを見たので、そのことで電話をしたのが最後になりました。

葬儀には、地元の人たち、県内外の山の関係者も多数参列し、別れを惜しんでいました。今までのご厚誼に深く感謝申し上げます、心からご冥福をお祈りいたします。(合掌)

## 太平山 旭又コース 旭川に架かる橋が完成



プロジェクトチームがお手伝いすると説明であった。その後、各支部から今年度のイベントの進捗現状の説明があったが、ほとんどの支部がコロナの影響で、活動が半減以下であるとの言葉が目立った。また、登山口で現地集合、現地解散での山行を行っている支部もあった。青森支部からは、今年度の東北・北海道地区集会は中止。来年の開催はどうするか、各支部と協議中。開催するとなると、現時点で会場を確保しなければならず、コロナの状況は全く見通しが立たないと苦慮していた。支部合同会議は、十八時過ぎに解散となった。

ユーチューブを約五時間視聴した。会報「山」十月号 九〇五号を参照

原生林の七座山 支部山行報告 川口廣志

新型コロナウイルスの感染拡大阻止のため、春の山行を控えていたが、ようやくコロナも落ち着いてきたので、秋の山行は、能代市の七座山を権現座から松座までの縦走で実施した。十月十七日(土)、朝から小雨の降る中、集合場所の「五城目道の駅・悠紀の里」で、山行を実施するかどうか協議したが、とりあえず四台の車に分乗し、登山口の天神駐車場へ向かった。

天気は回復しそうなので、実施することに決定。支部長から恒例のパナナの差し入れがあり、準備をしていると雨が強く降って来たので雨具を着用して、九時三十分、熊谷委員を先頭に、参加者十二名、権現座コースを登り始めた。

登山道は、山の中腹を横に走る遊歩道と結ばれており、歩き始めて十分程で山仕事の安全守護の神様が祀られた「山神様」の祠の前を通過。さらに十五分程で「権現窟」着いた。

「権現窟」には、慈覚大師によって彫られたという獅子頭が巨岩の下に祀られている。かつては修験者の修行の場だったと言われるこの山は、山中いたるところに露出した巨岩の間や、岩を抱き込むように、樹齢三百年余りの天然杉の巨木が根を張っていて、今日は霧に包まれて幻想的な佇まいだ。

更に三十分ほど歩くと、蜂の巣状の窪みが無数にある巨大な「法華の岩屋」に出る。ここを過ぎると、足元に秋の味覚のキノコ、サワモタシやスギガノ

カ等があった。皆、大喜びで、早速ビール袋を手に、キノコを採った。ここから少し進むと分岐に出て、この山一番の急登を登り、仁鮎コースの分岐に出ると、二十分程で山頂・権現座(二八七・四巴)に十一時三十分着。雨は止み、集合写真を撮り、適度に間隔をとり昼食休憩とした。



山頂の権現座で

十二時三十分出発。烏帽子座を過ぎ、展望台のある箕座からは、眼下に米代川、阿倍比羅夫が建立伝説のある七座神社、森吉山の眺望が楽しめた。芝座、三本杉座、大座と東側の急峻な断崖に注意しながら登り降りを経り返し、最後の松座のベンチで息を整え、松倉登山口に十五時頃下山し、無事に解散となった。先に到着した会員が、車を回送してくれていたので、駐車地点まで2キロ程、歩くことなく短縮された。

参加者

- 柳田勇悦 若月寿 鈴木裕子 堀井弘 鎌田倫夫 川口廣志 石川祐子 熊谷光子 三浦昭男 会員外 柳田ルイ子 土田芳子 時田慎一

七座山 仁鮎コース 佐々木民秀

支部山行当日、仁鮎地区側から登り、山頂で皆さんと合流する予定であったが、生憎の雨天模様で急遽中止し、翌十八日、予定通りに仁鮎コースを晴天の下に登った(往復)。登り約一時間四十分程。

このコースは、猿田川の堰堤にある登山口から沢沿いに進み、上部で権現座コースと合流して山頂に至るのであるが、他のコースと異なり、ナメ滝や神宿る巨岩などがあり、それなりに楽しめるコースである。山頂に至るコースは八ッ程あるが、八番のこのコースだけが長らく藪刈りされておらず、一般登山向きとは言えない。

午後から天候が急変。小雨の中、杉林の続く銀杏神社コースを登って、箕座の展望台(平成三十年各所の標柱共改築へ。枝払いされて眺望は良く、仁鮎側がよく望まれた。下山は三本杉座の分岐から登山口へ。終点近くで駐車場のある登山口への道が付け替えされていた。(一週一時間四十分程。下山後、銀杏神社を参拝し、境内にあるイチョウの巨木三本を久々に観察して帰路についた。

なお、各山頂部の標柱は「倉」から「座」に変更されている。

同行者 佐藤博 鈴木裕子



ナメ滝のある沢を行く

お知らせ

新型コロナウイルス感染防止のため、令和二年度の年次晚餐会を中止にします。「第三波」などの先が見通せないリスクが高く、断腸の思いでの決断となりました。

会長 古野 淳

支部宛てメールの抜粋

◎事務局会議

- 七月一日午後 一時から鈴木宅。六十周年記念誌、会報合本を会員に郵送。出席者 鈴木裕子 鎌田倫夫 石川祐子 十月二日 山行案内発送。